

特定地域振興重要港湾の振興ビジョンの把握に関する研究

—振興ビジョンの記載概要の把握—

Study on the promotion of encouraging plan of specific regional development major ports

Understanding described overview of promotion plan

○大谷涼¹, 近藤健雄², 山本和清²,

*Ryo Otani¹, Takeo Kondo², Kazukiyo Yamamoto²

Abstract: It is a port of the Ministry of Transport (now Ministry of Land, Infrastructure and Transport) in Dep. of Environment is using the strength in 2000, to play a major role in the promotion of the region by industry and disaster prevention and leisure tourism and more is expected. I refer to the port and the chosen specific regional development the important port thirteen. Providing the promotion plan to specific regional development major ports of each when you chose. Grasping In this paper the role and approach towards the promotion of each port, and make researches issues of promotion vision.

1. 研究背景及び目的

港湾は、港湾法の適用が認められた港であり地域によって特色は様々である。例えば国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾でありその他の国の利害に重大な関係を有する港湾を重要港湾といい、重要港湾以外の港湾のことを地方港湾などといった港格¹⁾がある。

また、港湾は、物流基盤としてだけではなく観光やレクリエーションの拠点、環境、防災などの機能は地域の振興に密接な関係が生まれるため、港湾機能を充実させる必要性が非常に高い。運輸省（現国土交通省）港湾局は港湾機能を満足に活かすことと地元住民への配慮のため2000年5月に制度新設され、地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される港湾13港を特定地域振興重要港湾とした。重要港湾から地方港湾へ格下げしたことによりつくられた港湾であり、港湾法上の港格とは無関係であり特定地域振興重要港湾というのは通称である。

特定地域振興重要港湾に指定された際、各港湾の港湾管理者、行政、港湾関係団体などにより特定の分野振興ビジョンを制定することが義務付けられた。特定の分野の振興ビジョンに基づき、国からの技術的・財政的に積極的に支援を受けることができる。具体的な国の支援策とは「地域振興のための調査の重点実施」、「計画策定や技術的検討への支援」、「事業の推進」を行うとしている。

本研究では各特定地域振興重要港湾の振興に向けての取り組み方や役割について把握し、振興ビジョンの問題点について考究する。

2. 研究方法

2. 1 ヒアリング調査

各港湾が位置する市区町村の自治体に1次調査としてのヒアリング調査を行う。2次調査として各港湾の港湾管理者に現状についてのヒアリング調査を行う。

2. 2 調査対象

岩内港（北海道）、大湊港（青森県）、館山港（千葉県）、岩船港（新潟県）、福井港（福井県）、新宮港（和歌山県）、河下港（島根県）、八幡浜港（愛媛県）、水俣港（熊本県）、青方港（長崎県）、鼠ヶ関（静岡県）、常滑港（愛知県）、本部港（沖縄県）の計13港を対象とする。紙面の都合上、館山港、福井港、八幡浜港の特定地域振興重要港湾3港を本稿で取り上げる。尚、取り上げる3港は、みなと観光交流促進プロジェクトの参加港であり、観光誘致に積極的な港湾である。

3. 特定地域振興重要港湾の経緯

各港の港湾管理者に募集を行い、申請のあった港湾の中から国が特定地域振興重要港湾を選定する。選定条件は以下の通りである。

①人流・交流機能、観光・レクリエーション機能、防災機能、環境、産業といった振興すべき港湾機能の分野が明確である。

②地域の振興・活性化の観点からその振興が強く求められている港湾である。

③地域の振興に関し大きな影響を与えることが期待できる計画等が進展しており、その計画等と連携して港湾機能を振興することが地域の振興にとって重要な港湾である。

各港湾の特定分野は **Table 1**¹⁾の通りである。

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

Table 1. Specific role of port

港湾名	都道府県	特定分野
岩内港	北海道	観光
大湊港	青森県	防災拠点
岩船港	新潟県	観光
館山港	千葉県	観光・レクリエーション
鼠ヶ関港	静岡県	観光
常滑港	愛知県	人流
福井港	福井県	レクリエーション
新宮港	和歌山県	産業振興
河下港	島根県	産業振興
八幡浜港	愛媛県	産業振興
水俣港	熊本県	環境
青方港	長崎県	生活拠点
本部港	沖縄県	観光

3. 1 みなと観光交流促進プロジェクト

平成 16 年度国土交通省港湾局が発足であり、「みなとの観光交流」「海からのアクセス」「都市と観光地の施策との連動」等の観点から地域が一体となって、みなとを核とした地域の観光振興を図るものである。平成 17 年度には参加港湾 10 港の内、特定地域振興重要港湾 4 港（館山港、福井港、新宮港、八幡浜港）が含まれる。

4. 振興ビジョンのプラン内容

4. 1 館山港の振興ビジョン

地域活力の減少を問題とした館山港は「館山湾の魅力的な資源や海と陸の接続部にある港湾の特性を活かして、来訪者に多彩な海の観光・レクリエーション活動や憩いと交流の場、環境教育の場を提供する地域観光ネットワークにおける海側の拠点形成」を基本理念^[1]として進行している。地域特性を考慮したみなとまちづくりでは「人に優しい南房総館山みなとまちづくり」をテーマとし「賑わいの海辺づくり」の取り組みが進行中である。みなと観光交流促進プロジェクトには「海辺の自然を活用したみなとの観光振興」をテーマとして参加していた。Figure 1 は館山港振興ビジョンにより設置された館山夕日栈橋である。



Figure 1. Tateyama sunset pier

4. 2 福井港の振興ビジョン

福井港が抱える課題は九頭竜川河口域における放置艇、荷役機械等設備の整備、関税法上の開港と検疫機能の確保、福井港アクセス道路の整備、航路埋没対策、流通機能の拡充と定期航路の開設、福井港海岸護岸周辺の侵食対策である。そして、何より工業が中心の事業ということでもあったため、一般市民には直接的な関わり合いは希薄である。また、三国港には多くの歴史・文化遺産を有しているため振興には欠かせない要素となっている。基本方策は「人々に開かれた福井港」、「地域の産業と生活を支える福井港」、「地域の安全・安心を支える福井港」の 3 つであり、これにより三国港地区への関わり合いの深いものとなった。みなと観光交流促進プロジェクトには「歴史的世界遺産を活用したみなとの観光振興」をテーマとして参加していた。

4. 3 八幡浜港の振興ビジョン

フェリーターミナルと魚市場が隣り合わせ、港湾区域内に漁業区域が共存していることを地域の強みとし振興ビジョンを策定した。「特産品の水産物や農産物を利用した観光魚市場を整備、フェリー客などの来訪者を惹き付ける港づくり」、「水産市場をリニューアルして近代化を図る」、「防災拠点港湾としての整備やプレジャーボートの収容を図り、安心な暮らしを支える港づくり」という 3 つの基本目標を掲げた「港まちづくり」を計画した。振興ビジョンを推進し実現するため、「八幡浜港みなとづくり協議会」と「ワーキンググループ」が設立し積極的に計画を実行している。みなと観光交流促進プロジェクトには「体験型観光ツアーによるみなとの観光振興」をテーマとして参加していた。

5. まとめ

特定地域振興重要港湾 13 港の振興ビジョンを調査した結果、特定分野問わずここだけの地域にしかない歴史・文化や港湾形状を活かしたものを初め、拠点としての機能に関する整備が非常に多く、人々に親しみやすいことを整備内容とした計画がほとんどであった。

今回の調査で特定地域振興重要港湾の振興ビジョンは、時代と共に改訂され、現在の社会情勢に調和したものとなっていることを把握した。今後は振興ビジョンの変更点に着目して分析を進めたい。

(参考文献)

- [1] 池田宗雄：「港湾知識の ABC」, 2013 年 3 月
- [2] 関谷文彦：「観光港湾整備に関する基礎的研究」, 海洋建築工学科, 2000 年 3 月
- [3] 共同通信社：「地域を元気にした港 50 選」, 2005 年 8 月
- [4] 染谷昭夫：「港湾ビジネスの国際交流」, 2009 年 11 月
- [5] 柳瀬太郎：「港湾整備事業における実効的計画の策定に関する考察」, 2000 年 9 月